

令

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
現代文 B		2 学年	2	70 時間	必修
教科書（出版社）		高等学校改訂版 現代文 B（第一学習社）			
担当教員		石村・仁井田			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 ・思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 ・入試も視野に入れて、漢字を始めとする国語常識力・語彙力を身につける。 ・本を読む楽しさ、知識を吸収する楽しさを知り、人間性を豊かにしていく。 				
授業内容	1 学期	評論 『自他の「間あい」』 鷲田 清一 目標 1、評論の文体に慣れ、論理展開を理解する。 2、筆者の主張を正確にとらえ、自分自身の意見も持つ。 小説 『山月記』 中島 敦 目標 1、登場人物の心情を読み取る。 2、心情を想像する楽しさを知る。 3、李徴がなぜ虎になってしまったかを読み取る。 4、自分自身に投影し、自己を見つめる。	授業時数	24	図書館・ICT 機器利用 適宜利用
	2 学期	小説 『こころ』 夏目 漱石 目標 1、登場人物の心情を読み取る 2、自分自身に投影し、自己を見つめる。 評論 『「私」中心の日本語』 森田 良行 目標 1、具体例により論拠を示す論述的な文章を読み、筆者の主張を的確にとらえる。 2、人々の言葉を意識的に見つめ、関心を高める。	28	適宜利用	
	3 学期	評論 『手の変幻』 清岡 卓行 目標 1、抽象的な言語から、内容や背景を理解する。 2、自分を取り巻く世界について考える。 小説 『バグダッドの靴磨き』 米原 万里 目標 1、主題を把握し、価値の多面性について考える。 2、現代の戦争について理解を深める。	18	適宜利用	
点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・小テスト ・年間五回の定期考査において、個々の理解度・習熟度を確認し、総合的に評価する。 ・授業への取り組みと課題の提出。 				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
古典 B		2	3	90	必修
教科書（出版社）		標準古典 B（第一学習社）		担当教員	仁井田・松田
学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養い、原典をじっくり読み込むことにより、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
授業内容	1 学期	一 説話に親しむ 平中が事（古本説話集） 文字一つの返し（十訓抄） 二 物語を読む 初冠(伊勢物語) 通い路の関守(伊勢物語) かぐや姫の昇天(竹取物語)		授業時数 34	図書館・ICT 機器利用 適宜利用
	2 学期	三 随筆を読む 公世の二位のせうとに（徒然草） 奥山に、猫又というものありて(徒然草) うつくしきもの(枕草子) すさまじきもの(枕草子) 四 和歌を味わう 万葉集		36	適宜利用
	3 学期	五 日記を読む 門出（更級日記） 鏡のかげ（更級日記） 六 史記を読む 項羽と劉邦(史記) 四面楚歌(史記)		20	適宜利用
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況、ノート提出（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。 ・定期考査は、1・2 学期は中間考査と期末考査を、3 学期は期末考査をそれぞれ百点満点で行う。 ・小テストは、学習した語彙に関連したものを実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。 				

教科・科目名		対象学年・組	単位	授業時数	必修・選択
地歴科・世界史B		2年A・B・C・D・E・F・G組	3単位	75時間	必修
教科書（出版社） 副教材（出版社）		詳説世界史B（山川出版社） グローバルワイド最新世界史図表 （第一学習社）	教科担当	楫 太郎 船坂 良輔	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験75%突破できる実力養成を目標とする。 ・世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 ・世界史以外の科目とも関連づけつつ、社会・文化の多様性という観点を押さえる。 				
授業内容	学期	単元	指導内容	指導目標	
	1学期	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の形成	1 大航海時代 2 ルネサンス 3 宗教改革 1 近代主権国家の成立 2 重商主義と啓蒙専制主義	アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。	
	2学期	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展	3 ヨーロッパ人の海外進出 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 1 ウィーン体制	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。	
	3学期	第12章 アジア諸国の動揺	2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 1 ヨーロッパのアジア進出 2 西アジアの変動 4 東アジアの変動	世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。	
法 評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査、プリント・ノート提出、授業中に行う発問等で理解度をはかる。 ・定期考査はもちろん、生徒の日常の学習姿勢・意欲を十分に評価に反映できるよう総合的に判断し評定を行う。 ・世界史の事象を主体的にとらえて判断し、論じられることを目標とする。 				

教科・科目名		対象学年・組	単位	授業時数	必修・選択
地歴科・日本史 B		2年 A・B・C・D・E・F・G 組	3 単位	75 時間	必修・必修選択
教科書（出版社） 副教材（出版社）		詳説日本史 B（山川出版社） 詳説日本史図録（山川出版社）	教科担当	三浦 弘史 大久保 壮孝	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験 75%突破できる実力養成を目標とする。 ・①文化の総合的な学習、②地域学習の重視、③主題学習の充実の3点に留意し、生徒の興味・関心を喚起する授業展開を心がけ、歴史の時代像を大きく把握させる。 ・日本史以外の社会科の科目とも関連づけながら、世界の中の日本という観点を押さえる。 				
授 業 内 容	学期	単元	指導内容	指導目標	
	1 学期	第 4 部近代・現代 第 9 章近代国家の確立	1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の日本史研究の成果を取り入れ、確実な歴史的事実を伝えていく。 ・世界の中の日本という視点を大事にし、地域史も積極的に取り上げていくことで郷土についての理解と愛着を深めさせる。 	
	2 学期	第 10 章二つの世界大戦とアジア 第 11 章占領下の日本	1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の授業では関東近県の地券などできる限り現物資料を教室に持ち込むつもりでいる。それらに触れさせることで本物のよさに着目させる。 ・日本がアジアの植民地化から敗戦に至った経過を理解し、戦後日本が抱える諸問題について考えさせる。 	
	3 学期	第 12 章高度成長の時代 第 13 章激動する世界と日本	1 55 年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく興味、関心を起こさせる授業展開に心がけ、授業では講義一辺倒にならないよう発問を多く取り入れ、全体として日本史の流れを把握させる。日本史学習のまとめを行う。 	
法 評 価 の 観 点 ・ 方	<ul style="list-style-type: none"> ・年 5 回の定期考査、プリント・ノート提出、授業中に行う発問等で理解度をはかる。 ・定期考査はもちろん、生徒の日常の学習姿勢・意欲を十分に評価に反映できるよう総合的に判断し評定を行う。文化史にもウエイトをかけつつ、記憶中心の知識偏重にならないように、自分で考え、論述問題にも対応できる論理的な物の見方ができる力を鍛える。 				

教科・科目名	対象学年・組	単位	授業時数	必修・選択
地歴科・日本史 A	2年DEFG組	2単位	50時間	必修選択
教科書（出版社） 副教材（出版社）	現代の日本史A（山川出版社）	教科担当	三浦 弘史	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史の基本的知識を獲得する。 ・全体の歴史の流れを時代像として理解できるように留意する。 ・文化史にも興味・関心を持てるように留意する。 ・日本史以外の社会科の科目とも関連づけながら、世界の中の日本という観点を押さえる。 			
授 業 内 容	学期	単元	指導内容	指導目標
	1 学 期	第1章 開国と維新 第2章 近代国家の形成と 発展	1 明治維新の背景 2 開国とその影響 3 政治秩序の崩壊と改革 1 憲法制定と議会の開設 2 条約改正交渉 3 藩閥・政党の対立 4 日清戦争と日露戦争	・関連事象の相関関係を押 さえつつ全体像を理解させ る。 ・世界の中の日本という視 点を大事にし、地域史も積 極的に取り上げていく。
	2 学 期	第3章 産業化の推進と国 民生活の変化 第4章 第一次世界大戦と 大正デモクラシー 第5章 第二次世界大戦と 日本	1 産業革命と資本主義 2 社会問題の発生 3 市民生活の変容と大衆 文化 1 第一次大戦 2 デモクラシーと政党政 治 1 恐慌と軍部の台頭 2 満州事変と国際的孤立 3 第二次世界大戦	・藩閥政治と政党政治のせ めぎ合いの中での政局の推 移を理解させる。 ・日本がアジアの植民地化 から敗戦に至った経過を理 解し、戦後日本が抱える諸 問題について考えさせる。
	3 学 期	第6章 占領下の日本 第7章 日本の自立と経済 成長 第8章 現代の世界と日本	1 占領政策の転換と民主 主義の定着 2 経済復興から高度経済 成長へ 1 安保体制と経済大国へ の道 1 冷戦の終結と日本社会 の動揺	・戦後の諸改革と民主主義 を相関的にまとめる・発問 を多く取り入れ、全体とし て日本史の流れを把握させ る。日本史学習のまとめを 行う。
法 評 価 の 観 点 ・ 方	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査、プリント・ノート提出、授業中に行う発問等で理解度をはかる。 ・定期考査はもちろん、生徒の日常の学習姿勢・意欲を十分に評価に反映できるように総合的に判断し評定を行う。また、記憶中心の知識偏重にならないように、生徒の興味関心を喚起させつつ、自分で考えながら論理的な物の見方ができる力を鍛える。 			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
数学Ⅱ	2	3	105	必修
教科書（出版社）	新版 数学Ⅱ 改訂版（実教出版）			
担当教員	荻野 駿一、加藤木 美希、平林 宣夫			
学習の目標	数学Ⅱは大きく分けて、高次方程式の分野（その事前分野としての整式の除法、因数定理、複素数）と、図形と式（直線、円、軌跡と領域）、関数（指数関数、対数関数、三角関数）、微分・積分の分野になる。1年次の数学の基礎学力の充実に引き続き、より高度な数学的思考方を養うことを目標とする。また、理系の生徒に対しては、入試を視野に入れた指導をおこなう。			
授業内容	1学期	4月 二項定理、整式の除法、分数式 5月 複素数、2次方程式・高次方程式、 剰余の定理・因数定理、 6月 等式・不等式の証明 7月 点の座標・距離、直線、円の方程式	授業 時数 36	図書館・ICT 機器利 用 なし
	2学期	9月 軌跡と領域、三角関数 10月 三角関数・加法定理 11月 指数・対数関数、常用対数 12月 微分、微分係数、導関数	45	なし
	3学期	1月 接線、導関数と関数の増加・減少 2月 グラフの概形（極大・極小） 3月 積分、不定積分・定積分	24	なし
評価の方法・観点	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業中の取り組み等 			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
数学 B	2	3	105	必修
教科書（出版社）	新版 数学B（実教出版）			
担当教員	石井			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Bの学習を通して、数学的なものの見方・考え方を養う。 ・理系の進学を考えている生徒が多く、入試に頻出の2単元であるためそれに対応できる実力を養う。 			
授業内容	1 学期	平面ベクトル・内積・ベクトルの応用、ベクトル方程式 空間ベクトル	授業 時数 36	図書館・ICT 機器利 用 なし
	2 学期	空間ベクトル 等差数列・等比数列・階差数列の一般項、和 シグマの計算および漸化式と数学的帰納法	45	なし
	3 学期	漸化式と数学的帰納法、問題演習	24	なし
評価の方法・観点	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・提出物 ・授業中の取り組み等 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
化学		2	3	105	選択必修
教科書（出版社）		改訂化学（東京書籍）			
担当教員		兵藤			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ICTを活用した授業や実験などを行い、科学的な思考力や科学的に探究する態度を養う。 演習や実験などを行い、化学に関する計算技能や科学的に探究する技能を身に付けるようにする。 				
授業内容	1 学期	1編 物質の状態 物質の状態、気体の性質、溶液の性質、固体の構造 2編 化学反応とエネルギー 化学反応と熱・光、電池と電気分解	授業 時数	36	図書館・ICT機器利用 ICT パソコンなど
	2 学期	3編 化学反応の速さと平衡 化学反応の速さ、化学平衡、水溶液中の化学平衡 4編 無機物質 周期表と元素、非金属元素の単体と化合物 典型元素の単体と化合物、遷移元素の単体と化合物 無機物質と人間生活	42	ICT パソコンなど	
	3 学期	5編 有機化合物 有機化合物の特徴と構造、炭化水素、アルコールと関連化合物、芳香族化合物、有機化合物と人間生活 6編 高分子化合物 天然高分子化合物、合成高分子化合物、 高分子化合物と人間生活	27	ICT パソコンなど	
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題や授業プリントなどの提出 授業に臨む態度など 				

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
物理基礎	2	2	70	選択必修
教科書（出版社）	高等学校改訂物理基礎			
副教材（出版社）	◆2020 セミナー物理基礎（第一学習社）			
担当教員	原田			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験等により，物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てる。 ・单元ごとに物理の基礎的・基本的な概念に親しむ。また，原理・法則に十分に触れる。 			
授業内容	1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・物理量の扱い方、基本単位，組立単位，科学表記 ・物体の運動、力のつりあい、運動の法則、速度、加速度、落下運動、力の合成・分解、つりあい、作用・反作用、運動の3法則、運動方程式 		
	2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・物体の運動、力のはたらき、運動の法則 ・仕事とエネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー 熱と温度、エネルギーの変換、圧力と熱運動 ・波の性質、波の表し方、波の重ね合わせ、音波の性質 物体の振動 		
	3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気と電流、抵抗、オームの法則、抵抗の接続、電気エネルギー ・電流と磁場、モーターと発電機、交流と電磁波 ・太陽エネルギー、化石燃料 		
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の素点、レポートの素点 ・ノートの提出状況 ・授業態度、出欠状況 <p>これらを基にして総合的に評価する。</p>			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
物理基礎	2	2	70	選択必修
教科書（出版社）	高等学校改訂物理基礎			
副教材（出版社）	◆新編センサー物理基礎改訂版（啓林館）			
担当教員	原田			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを用いた観察や実験，そのシミュレーションを十分に授業に導入し，物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てる。 ・単元ごとに十分な問題演習と小テストを行い，物理の基礎的・基本的な知識を習得する。また，基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。 			
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆物理量の測定と扱い方 基本量，基本単位，組立単位，有効数字，科学表記 ◆物体の運動◆力のはたらきとつりあい◆運動の法則 速度 加速度 等加速度直線運動の計算とグラフ 落下運動 さまざまな力 力の合成・分解とつりあい 三角比と力の分解・成分 つりあう2力と作用・反作用の2力の違い 物体が受ける力のみつけ方 運動の3法則 運動方程式の利用 		
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆物体の運動◆力のはたらきとつりあい◆運動の法則 抵抗力を受ける運動 摩擦力のはらたく向き ◆仕事と仕事率◆熱とエネルギー 仕事と仕事率 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー 力学的エネルギーの式の練習 熱と温度 エネルギーの変換と保存 気体の圧力と熱運動 ◆波の性質◆音波 波の表し方と波の要素 $y-t$ グラフの描き方 波の重ね合わせ 波の作図 音波の性質 物体の振動 		
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆静電気と電流 静電気 電流と抵抗 オームの法則と抵抗の接続 電気エネルギー ◆電流と磁場 磁場 モーターと発電機 交流と電磁波 ◆エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料 		
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ◆定期考査の素点，単元別小テストの素点 ◆授業テキストの提出状況，出席状況 ◆授業態度 上記を総合的に評価する。 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
体育		2 学年女子	2	70	必修
教科書（出版社）					
担当教員		吉岡			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わう。 ・ 体力の向上を図り公正、協力、責任などの態度を育てる。 ・ 生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力を育てる。 				
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体づくり(基礎体力づくり・体力測定) 自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践する。また統一スポーツテストの実施により、自己の体力、運動の適性を知る。 ・ ラジオ体操第1の習得を図る。 ・ 水泳 バタフライ、背泳ぎの習得、25mの記録を計測する。 ・ 体育理論1 体育授業の必要性、オリンピックパラリンピック。 ・ ダンス1 1年次の基本を発展させる。 	授業時数	24	図書館・ICT 機器利用
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球技 <ul style="list-style-type: none"> 1 バレーボール 基本的な技術(サーブ、レシーブ、トス、スパイク)を充実させる。ルールを理解し簡易ゲームができるようにする。 2 テニス 基本的なストローク・サーブ・ボレーなどの技術を習得し、簡易ゲームが楽しめるようにする。 ・ 体育理論2 水泳授業による心肺機能の向上、オリンピックパラリンピック。 	28		
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持久走 距離を走る特性を理解し段階的練習により、記録を高められるようにする。 ・ 球技 バドミントン ネット型のゲームの特性を理解し、各種打ち方を習得しシングルス及びダブルスのゲームができるようにする。 ・ 体育理論3 持久走による心肺機能の向上と縄跳びトレーニング、オリンピックパラリンピック。 	18		
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技点・出席点・平常点を総合的に判断して評価する。 				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
体育		2 学年男子	2	70	必修
教科書（出版社）					
担当教員		柳屋・伊堂寺			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わう。 ・体力の向上を図り公正、協力、責任などの態度を育てる。 ・生涯にわたって計画的に運動に親しむ能力を育てる。 				
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり(基礎体力づくり・体力測定) 自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践する。また統一スポーツテストの実施により、自己の体力、運動の適性を知る。 ・ラジオ体操第1の習得を図る。 ・水泳 バタフライ、背泳ぎの習得、25mの記録を計測する。 ・柔道 1年次の基礎を発展させ、寝技の乱取り、立ち技の乱取り、試合方法を学ぶ。 ・体育理論1 体育授業の必要性、オリンピックパラリンピックについて学ぶ。 	授業時数	24	図書館・ICT 機器利用
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道 これまで習得した技術をもとに、試合形式を行う。 ・球技 ソフトボール 基本的なキャッチボール・バッティングなどの技術を習得し、ゲームが楽しめるようにする。 ・体育理論2 水泳授業による心肺機能の向上、オリンピックパラリンピックについて学ぶ。 	28		
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走 距離を走る特性を理解し段階的練習により、記録を高められるようにする。 ・球技 テニス 基本的なストローク・サーブ・ボレーなどの技術を習得し、ゲームが楽しめるようにする。 ・体育理論3 持久走による心肺機能の向上と縄跳びトレーニング、オリンピックパラリンピックについて学ぶ。 	18		
評価の方法・観点	<ul style="list-style-type: none"> ・実技点・出席点・平常点を総合的に判断して評価する。 				

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
保健	2学年	1	35	必修
教科書(出版社)	現代保健体育 改訂版			
担当教員	吉岡・中島・伊堂寺			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康について個人として、また、社会の一員として、さらに、地球の一員としての取り組みが求められる社会状況であることを認識させる。 ・将来にわたって明るく健康な生活を形成・維持していく上で欠かせない知識や能力を高める。 ・2学年では、1学年で学んだ内容を踏まえ、自ら考え自ら学ぶという、より実践的に学習することを目的とする。 			
授業内容	1 学期	<p>1 生涯を通じる健康 思春期から中高年期までの健康にかかわることがらや、それぞれの段階で必要になる保健医療サービスの活用のしかたなどについて学習する。</p> <p>1.思春期と健康 2.性意識と性行動の選択 3.結婚生活と健康 4.妊娠出産と健康 5.家族計画と人工妊娠中絶</p>	授業 時数 12	図書館・ICT 機器利用 ICT 機器利用
	2 学期	<p>6.加齢と健康 7.高齢者のための社会的取り組み 8.保健制度と保健サービスの活用 9.医療制度と医療費 10.医療機関と医療サービス</p> <p>2 社会生活と健康 健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康との関係などについて学習する。 現在の問題を十分理解させ、今後に向けての課題意識を強く持たせるようにする。</p> <p>1.大気汚染と健康 2.水質汚濁と健康 3.土壌汚染と健康 4.健康被害の防止と環境対策</p>	15	ICT 機器利用
	3 学期	<p>5.環境衛生活動のしくみと働き 6.食品衛生活動のしくみと働き 7.食品と環境の保健と私たち 8.働くことと健康 9.労働災害・職業病と健康 10.健康的な職業生活 6.食事と健康</p>	8	図書館
評価の観点・方法	○出席・授業態度、ノート・レポート、テストを総合的に判断して評価する。			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
芸術科音楽Ⅱ		2	2	70	必修
教科書（出版社）		TuttiⅡ(教育出版)			
担当教員		館 弓子			
学習の目標	・音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
授業内容	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 表現（器楽）：コードの響きを感じながら歌おう ◆ 表現（歌唱）：三声の響きを感じて歌おう ◆ 理論：楽典の基礎(反復記号、コード) 	授業時数	24	図書館・ICT機器利用 ◆表現(歌唱) : CD
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鑑賞：音楽で表現される物語を感じよう ◆ 創作（編曲）：変奏編曲をしよう ◆ 表現（歌唱）：イタリア歌曲を歌おう ◆ 理論：楽典の基礎（音名・音高） 	授業時数	28	◆鑑賞：映像
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鑑賞：心に寄り添う音楽 ◆ 表現（歌唱）：表現を工夫して歌おう <p>上記授業内容は生徒の実状を踏まえ適切に変更することがある。</p>	授業時数	18	◆鑑賞：映像
評価の方法	観点	方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 音楽や音楽活動に対する関心・意欲・態度 ◆ 音楽表現の創意工夫 ◆ 音楽表現の技能 ◆ 鑑賞の能力 	<ul style="list-style-type: none"> ◆プリント提出 ◆実技試験 ◆期末考査 ◆観察法 			

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
芸術科書道Ⅱ	2年	2	70	選択
教科書（出版社）	『書道Ⅱ』（東京書籍）			
担当教員	永田 啓子			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国書道史、日本書道史を教養として学ぶ ・中国の各時代の正式書体と通行書体を知る ・篆書・隸書・草書の字形と用筆を学ぶ ・仮名の用筆と変体仮名を知り、仮名作品に活かす 			
授業内容	1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の字形と用筆を学ぶ ・正式書体としての隸書を学ぶ（禮器碑、曹全碑、乙瑛碑） ・通行書体としての隸書を学ぶ（居延漢簡、） ・さまざまな草書の書風を学ぶ（王羲之、孫過庭、他） 	授業時数 24	図書館・ICT機器利用
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな行書の書風を学ぶ（王羲之、太宗、米芾、他） ・さまざまな楷書の書風を学ぶ（唐の四大家復習、北魏、六朝、他） ・漢字の書の作品制作 	28	
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の古典を学ぶ ・仮名の用筆、書式を学ぶ ・仮名の書の作品制作 	18	
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・書道史・書論を教養として学んでいる ・古典の書きぶりを踏まえ、作品に活かしている ・確認プリント、定期考査で書道史、書論の習熟度を計る ・作品の制作により、各書きぶりの字形と用筆、精神性の習熟度を計る 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
美術Ⅱ		2年	2	70	必修
教科書（出版社）		光村図書出版 美術2			
担当教員		橋岡昭男 千葉 光			
学習の目標	美術Ⅰの学習を踏まえ、生徒が主体的に表現することにより、表現の楽しさや完成の喜びを味わい、自己表現を果たしてゆく態度を養う。				
授業内容	1 学期	デッサン 石膏像 色彩 平面構成 デザイン ポスター	授業 時数	24	図書館・ICT機器利用
	2 学期	紙立体 平面から立体へ 木工 スプーン制作	28		
	3 学期	デザイン 情報伝達デザインについて	18		
評価の観点・方法	主体的に表現させる。 考えながら制作する態度を養う。 制作を通して自己理解や他者理解を図る探究心を養う。				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
コミュニケーション英語Ⅱ		2	3	105	必修
教科書（出版社）		<ul style="list-style-type: none"> ・ Power On Communication English Ⅱ（東京書籍） ・ Power On English Communication Ⅱ Workbook（東京書籍） ・ 英単語ターゲット1400（旺文社） ・ It's a Long Story.（エスト出版） ・ Hyper Listening Pre-Intermediate（桐原出版） ・ Mileage Reader 2（いっずな書店） 			
担当教員		福田・松岡・伊藤			
学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語やその運用についての知識を身につけ、背景にある文化などを理解することができる。 				
授業内容	1学期	Lesson 1 : Take a Shot or Not Lesson 2 : Ethical Fashion Lesson 3 : Landfill Harmonic Lesson 4 : Icons of Scotland	授業時数 36	図書館・ICT機器利用	
	2学期	Lesson 5 : Japan's Secret Health Food Lesson 6 : Vegetable Factories Lesson 7 : The Power of Color Lesson 8 : Miu and Mima, Friendly but Tough Competitors	45		
	3学期	Lesson 9 : From Owning to Sharing Lesson 10 : Solar Cooking	24		
評価の方法・観点	<p>定期考査の素点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークブック、ノート、プリントなどの提出物 ・ 単語テスト、授業態度 ・ 出席状況 <p>以上を総合的に見て評価する。</p>				

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別	
英語表現Ⅱ		2	2	70	必修	
教科書（出版社）		Big Dipper English Expression Ⅱ（数研出版） Evergreen English Grammar 30 Lessons（いいずな書店） Evergreen English Grammar 30 Lessons Workbook（いいずな書店） スクランブル英文法・語法 4th Edition（旺文社） Focus on Listening Standard（エミル出版）				
担当教員		福田・松岡・山本・宮井・宅				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・コミュニケーションの基礎となる文法・語法を理解し使えるようにする。 ・必要な情報を聞き取って、それに対する応答ができる。 ・聞き手や目的に応じて発話したり英語で文を書いたりすることができる。 					
授業内容	1学期	1	現在・過去 / 進行形	P10	授業時数	図書館・ICT機器利用
		2	未来表現	P12		
		3	現在完了形 / 現在完了進行形	P14		
		4	過去完了形 / 過去完了進行形	P16		
		5	助動詞	P24		
		6	注意すべき動詞	P26		
		7	受動態	P28		
	2学期	8	不定詞	P30		
		9	不定詞2	P38		
		10	不定詞3	P40		
		11	動名詞	P42		
		12	分詞	P44		
		13	比較1	P52		
		14	比較2	P54		
	3学期	15	関係詞1	P56		
		16	関係詞2	P58		
		17	関係詞3	P66		
		18	仮定法1	P68		
		19	仮定法2	P70		
		20	間接話法	P72		
		21	部分否定	P80		
		22	名詞構文	P82		
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の素点 ・ワークブック、ノート、プリントなどの提出物 ・小テスト、発表活動における積極性、授業態度 ・出席状況 以上を総合的に見て評価する。					

科目名	配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
家庭基礎	2	2	70	必修
教科書（出版社）	実教出版			
担当教員	山藤たまき、澁谷隆子			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関する基礎的・個本的な知識と技術を習得させ生活産業の社会的意義や役割を理解させると共に、家庭生活の分野に関わる諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践力を養う。 			
授業内容	1 学期	自分らしい生き方と家族 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立した生き方、共に生きる人生 ・ 共に生きる家族 ・ 家族にかんする法律 子どもとかわる <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを知る ・ 発達とすばらしさ 住生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 人と住まいのかかわり 衣生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 人と衣服とかかわり ・ 衣服の素材 	授業 時数 20	ICT 機器利用 ICT 機器利用
	2 学期	衣生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ エプロン製作 ・ 衣生活の管理 食生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの食生活 ・ 栄養を食品のかかわり ・ 食品の選び方と安全 調理実習	24	ICT 機器利用
	3 学期	調理実習 調理実習 経済的に自立する <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済のしくみを知る 	20	ICT 機器利用
評価の方法・観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ テストにより、知識がどれだけ得られたか。 ・ 被服実習・調理実習においてどれだけ基礎的な技術が身についたか。 ・ 授業中のプリント提出、作品の完成度。 			

科目名		配当学年	単位数	年間授業時数	必修・選択の別
総合的な学習の時間		2年	1	35	必修
教科書（出版社）					
担当教員		福田・橋本・松岡・平林・吉岡・山成・仁井田			
学習の目標	①自分を見つめ、様々な人との関わりを通じて、自己理解を深める。 ②自己の進路について考察し、計画する。 ③沖縄の修学旅行を通して、社会と平和に関する学習を行う。				
授業内容	1学期	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査 進路と興味関心、探究活動 学問と社会につながり 学びたい学問から学部を知る。 夏期休業期間のオープンキャンパスについて 	授業時数	11	図書館・ICT機器利用 あり
	2学期	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業期間中のオープンキャンパスの事後指導 進路講演会参加 分野別進路ガイダンス 沖縄修学旅行についての事前学習、探究活動 	12	あり	
	3学期	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄修学旅行 沖縄修学旅行事後学習 小論文の書き方 卒業生による進路講話 	12	あり	
評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> 目標とする進路に対して実現するために真剣に取り組んだか。 自己の課題に対して取り組み自己の課題を解決できたか。 				

